

Message form the Conference Chairman

FORUM2013 Conference Chairman & Founder Professor

森山 新 お茶の水女子大学グローバル教育センター長

本プログラムは 2009 年より本学を中心に行ってきた世界 8 か国 8 大学の「多言語・多文化サイバーコンソーシアム (Multilingual & Multicultural Cyber Consortium: MMCC)」を基盤として開催されたもので、昨年(2012)の第 1 回に引き続き、震災のあった 3.11 の時期にフォーラムを行うことで、グローバルな視点から東日本の大参事に再び思いを寄せ、世界の若者が国境、言語、文化などを越えて結束するきっかけを作ろうというものである。幸いに本プログラムは昨年度に引き続き、今年度も日本学生支援機構 (JASSO) のショートステイプログラムに採択、その支援のもとで 14 名の学生を本学に招くことができた。さらに今年度は本学が文科省のグローバル人材育成推進事業にも採択されたことで、各大学で日本語教育やグローバル人材育成に携わる先生方をお招きできた。この場を借りて深く感謝したい。

MMCC は日常的には TV 会議システムなどを通じてヴァーチャルに交流を展開している。それはキャンパスのグローバル化という点では大いに意義を感じているが、学生たちが真に国境を越えたグローバルな心と視点を持ち、自国外の問題であっても自国内の問題同様に見つめる視点を育てたり、グローバルな連帯による協働を実際に行ったりするにはやはり十分ではなく、その意味でこのように年に 1 度集まって、討論と協働を深める場が持てることは、「グローバル人」の育成にとってきわめて重要であると考えている。海外の学生は、日本語を駆使し、日本文化を理解する一方で、本学の学生は時には英語を、時には来日した学生の母語を駆使し、それぞれの文化を理解することで、学生たちに複言語・複文化の立場に立つグローバル人材となって、はばたいてもらいたいと考えている。

前回は東日本大震災の惨状とその後の復興支援について世界の学生に伝えると同時に、それぞれの国において日本の震災がどのように報じられ、どのような支援の輪が広がったかについて語っていただいた。これまで数多くの国際会議、シンポジウムを企画・参加してきたが、涙なくして臨むことができない国際イベントはこれがはじめてであった。

今回はさらに一歩前進させ、東日本の大参事をさらに大きくしてしまった福島原発の教訓をもとに、今後世界のエネルギー政策はどうあるべきか、それぞれの立場から討論を行う。日本は広島・長崎について福島という核の被害を被った国である。その日本に世界の学生が集まり、二度とこのような被害を繰り返さず、なおかつ世界のエネルギー問題に有効な提言をすることをめざしたい。そのために次世代を担う若者が、国境を越えて集まり、心をつとめて討論を行うことは非常に大きな意義があると言わざるを得ない。

また今回は世界各国で日本語教育に携わる先生方にお集まりいただき、単に言葉を教えるのではなく、世界がともに生きるためのグローバルな人材育成に貢献しようとする第二

言語教育を考える場を持つことができた。討論を通じて、新しい第二言語教育のあり方について提言をしたいと考えている。

本フォーラムでは本学の多くの教職員の方々の努力もさることながら、学生たちがボランティアで立ち上がり、フォーラムの成功のために、何十日も前から準備をしている。このように自ら立ち上がってくれた本学の熱き学生みなさんにも心から感謝したい。